

## 77. 子供の「しかり方」

**【問い】** よく「しかる」より「ほめよ」という言葉を聞きますが、親として、子供がどうしてもききわけがないと、つい、しかってしまいます。よい「しかり方」があれば教えて下さい。

**【答え】** お子さんにお手伝いをさせるとき「お手伝いをしてくれると、お母さんは助かるんだがなあ」と言うのと、「お手伝いをするのは当然よ」と言うのでは、お子さんの受けとり方が違うのはおわかりのことでしょう。たしかに、しかる回数は少ないほどよく、それに引きかえ、ほめる回数—ほめるというよりは「認めてあげる」といった方がよいかもしれませんが、認める回数を多くすることが大切だといわれています。

しかし、現実には、どうしてもしかなければならない場合もあると思います。そこで、そのときには次のような点に気をつけてはいかがでしょうか。

▷しかるときは、しかる理由を子供にはっきりとわからせること▷人前でしかることはできるだけ避け、ひとりのところでしかるようにすること▷いたづらをしたらすぐ後でしかること（2，3日たってからでは効果がありません）▷兄弟姉妹を引き合いに出して比較をしないこと▷じりじりと痛めつけるようなしかり方でなく、短時間に切りあげること▷くどくどと小言をならべるよりは、時には打つ方がよい場合もあること▷内気な子供には良いところを見つけてほめるようにすること▷活発な子供はしかってもくじけないで伸びる可能性があること▷最初が肝心です。善悪の判断を確実にするため、悪いことは見逃さないではっきりと教えること▷しかるとき、子供の発言を無視しやすいので必ず後で聞くこと▷しかっているようで案外、本質的にはしからず、感情に流れやすいので注意すること。